

MS-Office2010の署名について

- 標準がXAdES-EPESになり検証時にレベルを表示。
 - 将来的にXAdES-TやXAdES-Aにする事が出来る。
 - MS-Office2007でも検証が出来るようになった。
 - 以前はMS-Office2007では検証エラーになっていた。
- XAdES-T以上を付与するにはレジストリを変更。
 - XAdES-C以上は問題もありまだ使わせたく無い？
- まだ長期署名としてフル機能は難しいようだ。
 - 猶予期間が考慮されない為XAdES-C以上は疑問が。
 - XAdES-Aに更新してもまだ認識されない。
- MS-Office2010でのデジタル署名の推奨は。
 - XAdES-EPES(標準)またはXAdES-Tまでが無難だろう。

MS-Office2010の署名レベル

署名レベル	説明	考察
XML-DSig	XML署名（非長期署名） MS-Office2007での標準署名形式	長期署名化は出来ない
XAdES-BES/EPES	基本となる署名のみ（長期署名） MS-Office2010での標準署名形式	EPESはポリシーの指定が必要だが標準では空のまま
XAdES-T	署名タイムスタンプを追加 <SignatureTimeStamp>	RFC3161標準のサーバのみなので国内商用タイムスタンプ局対応は別途工夫が必要
XAdES-C	検証情報のリファレンスを追加 <CompleteCertificateRefs><CompleteRevocationRefs>	XAdES-X-Lの検証情報があれば無くても良いが必須になっている
XAdES-X	リファレンスのタイムスタンプを追加 <SigAndRefsTimeStamp>	XAdES-X-Lの検証情報があれば無くても良いが必須になっている
XAdES-X-L	検証情報を追加 <CertificateValues><RevocationValues>	署名時点の検証情報が追加され、 猶予期間が考慮されていない
(XAdES-A)	アーカイブタイムスタンプを追加 <ArchiveTimeStamp>	残念ながら 未対応

※ 検証情報はXAdES-X-LがあればXAdES-CとXAdES-Xは無くても良いが...

※ **猶予期間**が考慮されないなのでXAdES-C以上は現状では有用性が低い。

MS-Office2010の署名設定

レジストリ位置	HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Office\14.0\Common\Signatures	
XAdESLevel	付与する署名のレベルを指定する	REG_DWORD
値 (数値)	0 - XAdES Off (Create XML-DSig signatures) 1 - Create XAdES-EPES signatures (Default) 2 - Create XAdES-T signatures [XAdES-EPES+署名タイムスタンプ] 3 - Create XAdES-C signatures [XAdES-T+検証情報リファレンス] 4 - Create XAdES-X signatures [XAdES-C+XAdES-Cに対するタイムスタンプ] 5 - Create XAdES-X-L signatures [XAdES-X+検証情報]	
MinXAdESLevel	付与する署名の最低レベルを指定する	REG_DWORD
値 (数値)	0 - No minimum level (Default) 1 - Minimus level is XAdES-EPES 2 - Minimus level is XAdES-T 3 - Minimus level is XAdES-C 4 - Minimus level is XAdES-X 5 - Minimus level is XAdES-X-L	
TSALocation	タイムスタンプサーバのURL指定	REG_SZ
値 (文字列)	RFC3161準拠のタイムスタンプサーバのURL	

※ レジストリの設定変更は自己責任でテスト目的のみでの利用として下さい。

MS-Office2010の署名の詳細表示

- 署名の詳細に「署名の種類」が表示される。
 - MS-Office2007では表示されていなかった。

